HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	芒亭書屋談叢
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 98
Issue Date	1937-10-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77659
Type	column
File Information	A018_02_03all_Part33.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

芒亭書屋談叢

秋水

秋水と云へば利劍利刀を意味する場合が多い。澄みきつた秋の水は砥ぎすました利劍のヒヤ〃とする感じと一沫の相通ずるものが確かにある。越絶書に「太阿之劍其色如秋水」とある。然し秋水は支那の青龍刀などではなくして正に日本刀の感じである。

由來日本人の水に對する觀察は非常に深い樣に思ふ。日本人は常識的に春の水の性格秋の水の性格をよく識つてゐる。そして歌にも句にもそれ〴〵の水の性格を詠み現はす事に巧みである。

昔日本人が農を以て專ら業となし、特に水田を經營し始めた頃から、水は最も手近かな自然で最も大切な協力者であつた。水を畏れ又水を愛せざるを得なかつたのである。エヂプトの砂漠の住民には星が大切な自然の協力者であつたから、そこに天文學が勃興した樣に、日本人には水の科學は興らなかつたが、水の詩、水の傳說、水に關する慣行は數限りなくある。

凡そ水程千變萬化するものはない。怒れば萬丈の波濤にもなれば、靜かなる事太古の如き山湖の水もある。淡々たる事水の如しと云ひ、しと〳〵と降る春雨の情緒つきせぬもある。古井戸の水底には何か呪ひがこもつて居さうに思はれ、朝の露は珠玉の樣に美はしい。

千姿萬態する水の性格は日本人の性格でもある。腰間の秋水既に鞘をはなれて、皇軍の武威愈々高し。日本人の性格の一態である。